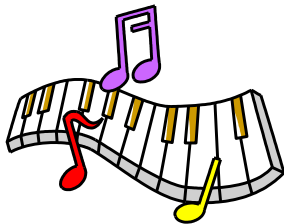


# 芸術・音楽科

## 学習指導計画



教科：芸術

科目：音楽ⅠⅡⅢ

### 音楽の学習目標

音楽は人生の中でとても豊かな時間を提供してくれるもの。そして最良の友となることができる芸術です。

音楽は心や感情といった、なかなか言葉だけでは表現しきれないもの、形にすることができないものを、「サウンド(音)」によって表現することができます。

心のアンテナを磨き、感度を高め、音楽を通して様々な命の表情が表現されていることを感じ取りましょう。そして、そのような表情を自らも表現することができればもっと楽しい時間を味わうことができます。アンサンブルではその楽しい時間を仲間と共有することができます。音楽の授業ではそれらの基礎を学習します。

### 年間授業計画

科目	学年	履修	単位	使用教科書（出版社）	主要補助教材（出版社）
音楽Ⅰ	1	共通 必修選択	2	改訂版ON! 1 (音楽之友社)	Music Note 基礎から学ぶ 高校音楽(啓隆社)
音楽Ⅱ	2	共通 必修選択	2	MOUSA 2 (教育芸術社)	交響曲第9番終楽章 改定新版 原語カナ付き (音楽之友社)
音楽Ⅲ	3	共通 自由選択	2	Joy of Music (教育芸術社)	コールユーブンゲン

### 学習の留意点

音楽では「表現」と「鑑賞」の2大領域があります。「表現」では、独唱や少人数によるアンサンブル、合唱といった活動を中心に取り組みます。個々の発声技術や歌唱力を向上させ、ハーモニーやリズムを感じ取り、他者と協調してアンサンブルする力を伸ばしましょう。また、基礎的な音楽理論(楽典)や音楽史の学習も音楽を深く理解する上では大切なことです。「鑑賞」では様々な時代や国の優れた作品に触れ、多様な音楽のあり方を理解します。また、現代の音楽への理解としてアカペラやジャズ等のポピュラー音楽も学習します。

### 単元

1 年

### 前期

- ・校歌 ・発声の基礎
- ・芸術歌曲 イタリア歌曲
- ・合唱祭に向けて 混声四部合唱曲 (ハーモニー)
- ・楽典 (音名・音符・拍子・リズム)
- ・ボディパーカッション

### 後期

- ・リコーダー実習
- ・楽典(音程・音階・調・コード)
- ・日本歌曲
- ・無伴奏混声合唱曲
- ・交響曲第九番第四楽章 合唱

### 評価の方法

実技試験(独唱試験・アンサンブル発表)・平常点(取組)  
鑑賞レポート(ノート)・楽典試験を総合して、評価します。

# 芸術・美術科

## 学習指導計画





教科：芸術  
科目：美術ⅠⅡⅢ

### 美術の学習目標

作品制作を通して造形技術・能力の基礎を身につけ、制作の喜びを味わう。同時に、自己の美的感性を培い、柔軟で清新な構想力を養うことによって、豊かな自己表現の能力を獲得する。

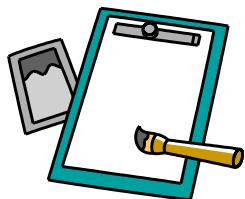
#### 年間授業計画

科目	学年	履修	単位	使用教科書（出版社）	主要補助教材（出版社）
美術Ⅰ	1	共通 必修選択	2	新・高校生の美術1（日本文教出版）	
学習の留意点	1年では造形表現の基礎力となるデッサン力をしっかり身につけ、その発展的学習として油彩による絵画表現・デザインによる伝達表現・立体による空間表現を学ぶ。また、表現の基礎をデッサンで身につける。				
月	1年				
前期	4	静物デッサン（筆箱を描く）			
	5				
	6	デザイン（カード制作） （ポスター・ロゴ入りチラシ制作）			
	7 9				
後期	10	油彩画制作（秋・冬のテーマよりグループ制作）			
	11				
	12				
	1 2	立体制作（石膏から削り出し） 			
評価の方法	評価は作品に重きを置くが、スケッチ・ワークシート、授業態度すなわち制作態度・制作過程も評価の対象とする。 高校生として身につけてほしい美術の基礎力を、デッサン、絵画、デザイン、彫塑の制作を通して学んでいくので、基礎的技能が作品にしっかりと反映されていることが大切である。				

# 芸術・書道科

## 学習指導計画

### 書道の学習目標



教科：芸術  
科目：書道ⅠⅡ

書道の諸活動を通じて、生涯にわたり書を愛好する心情を育成することが大きな目標です。具体的には、表現と鑑賞の能力を伸ばし感性を高めるなかで、書の文化や伝統についての理解を深め豊かな情操を養います。

「書道」とは単に「字を習う」のではなく、中学までの「書写」で学習したことを発展させ、主体的に学び、考える態度を養う中で自己を表現し、生活に生かす力を身につける科目です。

#### 年間授業計画

科目	学年	履修	単位	使用教科書（出版社）	主要補助教材（出版社）
書道Ⅰ	1	共通 必修選択	2	書Ⅰ（光村図書）	
<b>学習の留意点</b>	<p>硬筆・毛筆等を使用して、ただ文字を書くのではなく、自ら考え、課題を解決する学習活動である点において中学までの「書写」の授業と同様である。したがって、指導者が「手本」を書いたり朱墨で「添削」する機会は少ない。芸術科の「書道」の作品制作では書写能力に加え、書くことで自己を表現する能力が要求される。技術がいくら高くても、それが表現の目的に即していなければ、意味をなさない。また、鑑賞活動においては、普遍的な書之美を理解すると共に、様々な価値観を共有することで、自己を見つめ、他者を認める態度を身に付けるよう心掛けたい。</p>				
<b>月</b>	<b>1 年</b>				
<b>前期</b>	4	導入 「書道」とは何か			
	5	用具・用材について			
	6	書の作品と表現について			
<b>中期</b>	7	漢字の書の学習			
	8	漢字の古典の臨書と鑑賞（含篆刻） （楷書）			
	9	（行書） （隸書）			
<b>後期</b>	10	漢字仮名交じりの書の学習			
	11	日常生活の中の書（年賀状制作）			
	12	※全日本高等学校書道コンクール出品			
<b>評価の方法</b>	1	仮名の書の学習			
	2	仮名の古典の臨書と鑑賞 （平仮名） （変体仮名） 仮名創作（短冊）			
<b>評価の方法</b>	<p>定期考査を行わないので、毎回の授業での活動が評価の対象となる。 毎時間の目標（＝評価の基準）を明確に設定し、個々の上達度、意欲・関心・態度を授業内の活動から計り総合的に判断する。 提出課題の作品をポートフォリオとして活用し、書作品としての客観的な評価ではなく、個々の達成度や学習の過程を充分考慮した上で評価をする。 各年度最低一度、書を展示する美術館を観覧し、そのレポートをもって鑑賞領域の評価に加える。</p>				